

## 2009年夏山縦走報告

### 1日目 8月20日

晴れ 04:00 起床——05:06 雷鳥沢 CS 出発——06:29 一ノ越山荘到着——07:01 富山大学研究所到着——07:21 龍王岳山頂到着(立川・竹下) ——07:28 合流 ——07:58 鬼岳山頂脇到着——08:44 獅子岳山頂到着、08:56 出発——09:39 ザラ峠到着、09:52 出発——(二手に分かれる) ——10:28 五色ヶ原 CS 到着(小須田・竹下) ——12:00 頃 同 CS 到着(立川・古澤)

ほぼ快晴と言ってよい晴れ具合。しかし定着・縦走の中日に沈殿組が感じた通り、早朝は真砂沢より気温が低いように感じられた(テント内の人数によるところも大きいとは思いますが)。定着合宿でもうお馴染みになった雑煮を平らげ、雷鳥沢 CS を出発。ルートファインディングに少々戸惑いながらも、順調に一ノ越山荘に到着。ここで初めて槍ヶ岳を拝む。まだまだ小さくしか見えない槍ヶ岳が、日を追うごとに大きくなっていくのか——と、縦走合宿への意気込みが増す。その後、浄土山・獅子岳の分岐へ出発し、登山道の高山植物を写真に収めながら歩みを進める。紫色の花がかわいらしくきれいに咲いていた(この時はリンドウなどと勘違いをしていたが、後にエゾムラサキだと判明した)。同分岐へ到着後、立川・竹下は龍王岳登頂へ出発(07:14)、筆者(古澤)がバテ気味であったこともあり残りの二人は登りに行った二人の頂に立つ姿を撮影するため分岐点に留まる。鬼岳山頂脇でも鬼岳登頂を試みるが安全なルートが見つからず断念。途中、陽気なマダム達を追い越し獅子岳、ザラ峠と進む。キャンプが山荘とCSのどちらで申し込みかが不明であったため、五色ヶ原CS手前の分岐でCS組(小須田・竹下)と山荘組(立川・古澤)に分かれる(結果、山荘で申し込みだった)。あまりに早い時間に目的地到着となってしまったので、山荘の主人には「もう終わり？」と不思議がられ、CSにはまだ一つもテントが立っていなかった。が、予定を早めて急いで怪我をしても困る上、22日の藤田との合流があるので強行にメリットはないとのことで、その日の山行は終了となった。時間も食料も余っていたので、荷物を減らすためにも昼食を作る(ご飯+ホタテ・玉ねぎの炒め物)。食前~食後にかけて、CSに他大学のパーティーや高校生、個人山行者が増えてくる。日が傾いてきた頃から夕食を作り始める。献立はビーフシチューパスタ。美味であった。かなり楽な山行で、一日三食などと贅沢な一日であったが、その翌日との落差を知るものはまだいなかった…。(文責・1年古澤、敬称略)

## 2日目 8月21日

- AM3:00 起床 濃霧。視界悪し。
- AM4:15 出発 相変わらずの濃霧。ヘッドライトの明かりを頼りに進む。
- AM5:00 鷲山山頂着 日が昇ってもいい頃だが、あまり明るくならず。
- AM6:32 越中沢岳山頂着 名前の通り、沢のような山道を登っていった。
- AM6:55 雨降り出す。全員レインウェアを着る。風も強くなり、寒さを感じる。
- AM7:45 スゴノ頭着 「ここからアップダウンが続く」という看板・・・まさにその通りだった。
- AM9:00 スゴ乗越小屋着 予定ではここでストップだが、天候などを考慮し、薬師峠CSを目指すことに。
- AM9:40 出発 天気は少し回復。曇り空。雨が降らないことを祈りながら出発。
- AM10:37 間山山頂着 風がものすごい。体が押されるほどの暴風の中を進む。以前レインウェアは着用中。
- PM0:14 北薬師岳山頂着 風に加え、霧雨までも。尾根の右側、左側で風の強さがまったく違った。
- PM1:05 薬師岳山頂着 寒さに震えながら、なんとか到着。指標が見えたときの喜びは言葉に表せない。ほかにも何名かの登山者あり。
- PM1:48 薬師岳山荘着 休憩もそこそこに薬師峠CSを目指す。風は弱まり、足取りは早まる。
- PM2:14 薬師平通過 ここから沢を下って薬師峠CSへ。意外と沢は長かった。小須田先輩が足の痛みで少し遅れる。問題はなし。
- PM2:45 薬師峠CS着 辛い一日を何とか終える。立川先輩いわく、「泊まるならここが一番いい」とのこと。水場、トイレの設備良し。
- PM7:15 就寝 雨が降り始めしとしとのテント。明日晴れば干し物をしたいところだが・・・(1年竹下)

## 3日目 8月22日

晴れ

沈殿

6時頃皆起床するがこの日は沈殿すると分かっているせいか、なかなかすっきりと起きな

い。ゆっくりと朝食を作り、ゆっくりと食べた。

昨日の雨はすっかり止んで、雲もほとんどなくなっていた。昨日の雨でひどく濡れてしまった靴下、山靴やレインウェアなどを各々乾かす。

沈殿の日なのにカラッと晴れているが皆何もすることがないのでダラダラしたりトランプしたりしていたが11時頃に竹下がマイエッセンを足しに太郎平小屋に行こうと言いだし、11時35分に小屋へ。

小屋に到着してみるとちょうど寺司先輩と藤田が到着していた。そこで先輩からの差し入れでタコとジャガイモの形をしたカマボコを貰ったがタコのあしが四本しかないという重大な事実気がついたがそこは先輩の腕の見せ所で無残にタコの頭を分けて事無きを得た。それから先輩から激励とこれからのことを教えて貰い、先輩とは12時30分に別れた。それから藤田と合流し、14時頃に自分の責任で中途半端になってしまったカレーチャーハンを食べ、また16時に夕飯を食べてお腹が満たされたままその日は夜7時くらいには床に就いた。(2年立川)

## 4日目 8月23日

曇り

4時薬師峠CS～17時双六小屋

3時に起床し、4時頃に出発出来るよう皆テキパキと朝食をとりテントを片付ける。藤田以外は山の生活に慣れてしまったためだろうか。4時に薬師峠をあとにしまずは黒部五郎岳を目指す。5時前頃には太郎山に着くが山っぽくなかったので、竹下と古澤だけ山頂に行き、適当にスルーした。北乃俣岳に向かう途中、藤田がバテ始めたので藤田荷歩、5時10分。

途中、ライチョウを見つけ皆、各々の写真を撮るも立川だけはカメラを持ってきてなかったので寂しく待機。ようやく6時30分前頃に北乃俣岳に到着。北乃俣は日本海からの風が強く吹き付けるので皆岩かげに隠れていた。それから15分休憩して出発。赤木岳あったがピークが道にないのでスルー。

9時30分頃に黒部五郎の肩に到着。藤田はバテていたなのでそこで休憩させて山頂は四人で行った。10時ちょっと前、登頂。晴れ渡っていたため山頂からは薬師岳や三俣蓮華、水晶、赤牛そして槍ヶ岳までくっきりと見渡すことが出来た。

12時ちょっと前黒部五郎小屋に到着。ここで今までのペースだと双六まで行くのは厳しいのではないかと考えられたため、立川、古澤が先行して小須田、竹下、藤田が後からついていく形をとり、双六小屋を目指す。

先行していた二人だが、立川がバテ始めたので先に古澤を行かせ三俣蓮華岳で合流するこ

とにした。14時30分には三俣蓮華に到着。それからは双六の山頂には行かず中道を通って双六小屋に16時到着。あとから来た三人も17時に合流し、皆無事に双六CSに到着した。

皆疲れていたのですぐ夕飯にして、そのあとは途中偶然会った叔母様達から頂いたお菓子とオレンジを食べて、そのまま床に就いた。(2年立川)

## 5日目 8月24日

晴れのち曇り、気温低め

5:05 起床 6:52 出発 7:13 縦沢岳 9:27 千丈乗越 10:16 槍の肩 10:17 槍ヶ岳山荘 10:21 出発 10:32 槍ヶ岳登頂 10:54 山荘を出発 11:15 千丈乗越 13:54 縦沢岳 14:05 帰幕(双六小屋)

前日の会議の結果、テントをデポしての槍ヶ岳ピストンのみでこの日の行程は終了することになっていたのに遅めに起床。気温の低さに驚いた。前日の強行軍の疲労からか、藤田が頭痛を訴えた。再度協議し、槍ヶ岳経験者の立川には今回は我慢してもらい、小須田・竹下・古澤の3人で行動することに。帰りが遅くなった場合の対処や夕食の打ち合わせを済ませて出発した。順調に進み、お年寄りを中心に沢山の人達と出会いながら千丈乗越へ。途中、竹下が膝に痛みを催したため湿布薬を与えた上で少しペースを落とす。

人の多かった千丈乗越をスルーし、槍ヶ岳に入ると、さらに道が狭くなるため追い越しに苦労した。相当に混雑していたように思う。そのまま槍ヶ岳山荘へ。

山荘にザックだけ置いて山頂を目指す。こちらもかなり混雑しており、さながら道に落ちたお菓子にアリが群がっているようだった。順番待ちを繰り返しながらついに登頂したが、ここで問題発生。その日はかなりの好天で、それまで雲が出ることも稀だったにも関わらず、自分たちが山頂目前まで来たところでガスリ出したのである。それにより、景色が見えなくなったばかりか気温が急降下しだした。後もつかえていたので早々に山頂を後にし、山荘で気象情報とお土産をチェックして下山にはいる。霧は濃くなる一方で、縦沢岳に差し掛かった時点ではほぼホワイトアウトだった。しかし、幸いにも雨が降ることもなく順調に歩を進め、14:05に無事帰幕できた。(2年小須田)

## 6日目 8月25日

晴れ、極寒

5:10 起床 6:31 出発 7:24 弓折乗越 7:55 鏡平山荘 8:20 出発 8:50 シシウドヶ原  
9:20 ココロチボ岩 9:25 水場 10:10 小池新道入口 10:28 わさび平小屋 12:05 最初の温泉宿  
13:20 松本駅 18:22 出発 22:59 名古屋駅

起床してすぐ、前日をさらに上回る寒さに愕然とする。どうにかテントをたたみ、出発。弓折乗越周辺で防寒着を脱ぎ、順調に鏡平山荘へ。そこで休憩をとっていた女性からフルーツケーキを貰った。それ以降、ペースの差から分断しつつも、無事一般道へ。

わさび平小屋から最初の温泉宿は特記事項は無いように思う。温泉宿にて、そこで入浴するか会議していたところでタクシーが近づいてき、そこから 2500 円×5 人=12500 円で松本まで運んでくれるというので話に乗った。

松本で運転手から温泉の場所を聞き、松本駅で下車する。まず時刻表を調べるが、聞いていた話と違い、松本から博多まで 18 切符だけでの一日移動は不可能と判明。結局、その日のうちに名古屋まで行って駅ビバすることに決定。

余談だが、今回利用した温泉「ズイショウ（漢字の記録紛失）」は入浴 650 円でロッカー無料。設備も良好なため、お勧めできる温泉だと思う。(2 年小須田)

## 7日目 8月26日

1 日中電車移動。愛媛の実家に直行する藤田と岡山で分かれ、残り 4 人は 21:30（電車に遅れ発生）ごろ博多駅に到着し、そこで解散した。(2 年小須田)

以上が、縦走合宿の行動記録である。予定変更が多かったのは反省点だが、その度に柔軟な対応をとり、藤田は残念だったものの無事槍ヶ岳まで縦走できたことは 1 年 2 年共により経験になったと思う。

最後に、食材費を少しまけて下さった五十嶋商店の方、途中食品などを下さった方々、薬師岳で共に登頂した方々、その他関わった方々すべてに感謝して報告を終わる。

文責：2 年小須田